

IgA 腎症 (慢性糸球体腎炎) について

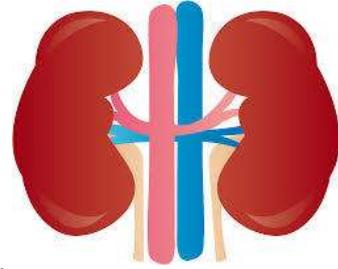
IgA 腎症は、10 代後半から 30 代前半の比較的若い男性に多くみられる腎臓の病気です。初期は無症状のことが多く、病状の進行に気づかず発見が遅れると、腎臓の機能が失われてしまいます。健康診断(検尿)で発見されることが多い重要な病気のひとつです。

どんな病気？

IgA 腎症の 70%は無症状で、健康診断などの尿検査で発見されます。残りの 30%は風邪(扁桃腺炎など)にかかった場合に肉眼的血尿が認められ、受診の結果診断されます。

免疫グロブリン A(IgA)は、本来自分の体を守る免疫物質です。

しかし、何らかの原因で免疫システムに異常が起こると、IgA は大量に発生して腎臓の糸球体に沈着し炎症を起こします。これが IgA 腎症です。炎症は慢性的に続くため、糸球体の機能は次第に低下していき、発症から 20 年も経過すると約 30~40%が腎不全になり、透析療法が必要になると言われています。腎不全への進行を遅らせるために、早期の専門医受診をお勧めします。



診断は？

尿検査で血尿と蛋白尿を認めます。血尿は、炎症の強さを反映すると言われていて重要な徴候です。

確定診断には腎生検(腎臓の組織を一部採取して、顕微鏡で調べる検査)を行って、IgA が組織に沈着していることを確認します。それによって予後の予測や治療方針の決定がされます。

治療は？

1. 薬物療法

IgA 抗体の発生を抑え、糸球体の炎症を抑制するために副腎皮質ステロイド薬が用いられます。

この他に、IgA 腎症の合併症である高血圧をコントロールするため降圧剤が使われたり、状態によっては免疫抑制剤や抗血小板薬などが使われる場合があります。



2. 扁桃腺摘出+ステロイドパルス療法

風邪、特に扁桃腺炎を繰り返すことによって IgA 腎症が引き起こされるという考えから、扁桃摘出術を行います。これにより蛋白尿が改善する場合があります。

その上で、糸球体の炎症を抑えるためにステロイドパルス療法を組み合わせます。

日常生活で注意することは？

1. 腎機能の程度によっては、食事面で減塩や蛋白質制限を行う
2. 過労を避ける
3. 禁煙する
4. 体重管理を行う
5. 腎機能の悪化につながる激しい運動は控える



*** 4月に行われる定期健康診断では、自身の健康状態の確認と異常を早期発見するために、必ず受診しましょう！！**